【コラム】川越の自然をたずねて（60）キノコ（その 2）

『川越のキノコを訪ねて きのこ編』構成内容

1. キノコって何だろう？
2. キノコは植物？動物？それとも？
3. キノコの生態
4. キノコの紹介　130 種
5. キノコあれこれ
   色いろいろ・変わった形・
   胞子紋・ミクロの世界
6. 冬虫夏草
7. キノコを探しに行ってみよう

本紙前号（2018 年 1 月号, No.135）ではキノコの冊子の発行についてお知らせしましたので、今月号ではその内容についてお知らせします。なお、この冊子の発行については「サイサン環境保全基金」様より多大な助成金の援助をいただきますこと、深く感謝いたします。2 月 25 日のかわごえ環境フォーラムにて刊行です。

きのこは自然界の中では脇役的な存在と思われがちですが、なかなかどうして、陰の立役者ということがこの 3 年間の編集作業でわかりました。弱った樹木をその成分であるセルロース・リグニンまでを分解し自然に戻す掃除屋としての仕事だけではありません。

陸上植物の大部分と共生関係にあり、無機栄養分を提供しているというのです。地下にはりめぐらしたキノコの本体である菌糸が植物の根と栄養のやり取りをしていて、植物からは光合成由来の有機栄養物を受け取っています。これがキノコの栄養源になるわけです。

このようなキノコの生態に関する内容がわかりやすく記述されています。キノコの個別の紹介では、川越市やその周辺で見られる 130 種あまりを掲載していて、パラパラめくるだけでも目の保養になるでしょう。アラカルトコーナーには話題性のあるものなど取り上げています。自然環境部会有志メンバーで編集に携わってきました。どうか、手に取っていただき感想、ご意見などいただけると幸いです。

（下図は表紙と記事の例です。）

（自然環境部会　賀登環）

表紙の挿絵

「きのこを探しに」

きのこあれこれ　★色いろいろ